

いじめの構造がみられた看護学生の  
研修型ベーシック・エンカウンター・グループ

高 橋 紀 子

九州大学心理臨床研究

第22巻 抜刷

2003年3月

## いじめの構造がみられた看護学生の 研修型ベーシック・エンカウンター・グループ

高 橋 紀 子

### I. はじめに

いじめ世代とも呼ばれる現代の青年にとって、集団における人間関係は重要なテーマのひとつであろう。人間関係を見つめなおす場として機能するエンカウンターグループ（以下、EG）は、こうした青年に必要とされると同時に脅威とも感じられやすい側面を持つと思われる。

そこで本論では、セッション中にいじめの構造がくり返された看護学生の研修型ベーシック・エンカウンター・グループの一事例の報告を通して、グループの特徴、ファシリテーターの配慮について考察することとする。

### II. グループ構成

#### 1. エンカウンター・グループの位置付け

エンカウンター・グループは、ある年の春に3泊4日（9セッション）で某看護学校の2年生全員を対象とした研修として行われた。事前にメンバーに配付された資料には次のように述べられている。

「目的：自分と他人を知り、新しい対人関係を結ぶ基とする。目標：1.自己を客観的に見つめ、今後の自己のあり方を考える。2.友人を知り、真の友情を築く。」

3グループが同時進行したが、そのうちの1つがここで報告するグループである。

#### 2. グループの構成

このグループの9名のメンバーと2名のファシリテーターは次のとおりである。

メンバー9名を以下、A子、B子、C子、D子、E子、F子、G子、H子、I子で示す。全員同じクラスの看護学生であり、女性である。年齢は、社会経

験があり20代中盤であるH子を除いて、他は20才から22才。グループ体験はB子とH子、G子が1回ある。G子は留年により、前年も同研修にてグループ体験をした。

なお、今回の研修には精神的不調により1人欠席者がいた。普段から孤立しがちなその生徒とB子は仲がよく、今回の欠席を心配していた。また、G子はその生徒を孤立させようとする主要な生徒の1人であったようだった。

ファシリテーターは筆者（以下、Faとする。女性、20代前半、大学院生、未婚、エンカウンター・グループのファシリテーター体験2回目）、コ・ファシリテーター（以下、Co-Faとする。女性、20代前半、大学院生、未婚、エンカウンター・グループのメンバー体験並びにコ・ファシリテーター体験それぞれ数回）。

#### 3. スケジュール

1日目：13:30～15:30はオリエンテーション  
15:30～17:00は第1セッション  
19:00～22:00は第2セッション  
2日目：9:00～12:00は第3セッション  
15:30～17:00は第4セッション  
19:00～22:00は第5セッション  
3日目：9:00～12:00は第6セッション  
15:30～17:00は第7セッション  
19:00～22:00は第8セッション  
4日目の9:00～11:30は第9セッション

#### 4. 場 所

場所は公共の宿泊施設が用いられた。セッションに使われた部屋は3畳程度の板の間のついた6畳

の和室。背もたれがあるほうがいいとのメンバーの要望からセッション中、板の間と和室の間の障子は閉められた。

### 5. リサーチ

参加者はグループ経験前後の「参加者カード」、毎セッション後の「セッションアンケート」への記入が求められた。

## III. 経過

### 1. 参加前の気持ち

「参加者カード」に記入されたメンバーの7段階評定のグループの参加意欲は平均 = 3.55 (SD=1.51)、期待は平均 = 3.66 (SD=1.32) である。

自由記述欄には次のように書かれている。また参加意欲と期待も記す。A子：早く帰りたい。ここまで来てこんなことをしなくてもいいと思う。みんなに色々言われそう。不安。どんな班になるか心配。恐いけど嫌なこととか言ってくれたら、自分がどんな人間かわかると思うので、ほんの少しは期待している。参加意欲は1、期待は2。/B子：目的が自分の中で明確でないので、意欲がわからない。早く終えて帰りたいと感じている。クラスの仲が良くなればいいなあと思う。参加意欲は2、期待は2。/C子：グループメンバーがわからないことや、何をするのかよくわからないので不安です。楽しく過ごせたらいいなあと思います。参加意欲は4、期待は3。/D子：研修会自体何をするのかわからないので不安が大きい一方、期待も大きいです。グループメンバーで楽しくやっていきたい。参加意欲は4、期待は3。/E子：先輩達に少し話は聞いたが、今ひとつ何をするのかよくわからない。どうせやるなら楽しく過ごしたい。1日中あるかと思うと少し気が重い。参加意欲は3、期待は4。/F子：皆と楽しい事ができ、楽しみな部分もあるが、グループのメンバーとうまくできるかが不安である。(3泊4日なので、いろんな人のいろんな部分が見えるだろうし、また自分の嫌いな所を見せ、嫌がられるのではないかと不安)。参加意欲は5、期待は4。/G子：どの子とメンバーになるのか楽しみ。どんな内容になるか楽しみ。言い合いとかならないか不安。言い争っても結果的

に良い方向へむかえばうれしい。参加意欲は4、期待は5。/H子：参加のきっかけはエンカウンターが授業のいつかであることを聞いたからです。不安は特にありません。あえて言えば、どのようなことをするのか全くわからないことです。自分にとってプラスになるようなものはどんどん吸収していこうと思います。参加意欲は3、期待は4。/I子：楽しめると良いと思う。早くグループが知りたい。どんなことをするのか不安と期待がある。参加意欲は6、期待は6。

ファシリテーターの参加意欲、期待はどちらも5。自由記述欄には、頑張っても空回りするので、メンバーの流れにまかせようという気分。どんなグループになるかわからないがそんなに気負いもない。コ・ファシリテーターがどんなファシリテーションをするのか楽しみ。

### 2. グループ・プロセス

#### ■オリエンテーション (1日目, 13:30~15:30)

アンケート記入→エンカウンター・グループについての説明→ファシリテーターの自己紹介→グループのメンバー発表→あみだくじによるファシリテーターの割り振り→くじによるグループ実施場所の決定→グループごとの記念撮影

#### ■第1セッション (1日目, 15:30~17:00)

以下、メンバーの発言を「」, Fa.の発言を〈〉, Co-Fa.の発言を《》で記す。

〈私達11人で3泊4日を過ごします。決まっているのは時間とメンバーだけ。後はみんなで話し合っていきます。私としては、ひとりひとりが無理することなく11人であることを心地よく感じられる時間を過ごせたらいいなあと思っています。〉と導入。しばらく沈黙の後「牧場に行きたい」とG子、パンフレットを広げる。〈パンフレットよく見つけてきたねえ。牧場か…。他の人は?〉沈黙。「…別に。私そもそもこのグループに乗り気じゃないし (A子)」 「ここに何かがあるか知らないから、何をしたら面白いのか決められない感じがあるのかな。〉他のメンバー頷く。〈私はみんながどんな人達なのか知らない、どんなことし

たら面白いのかイメージがつかない。牧場に行ったら楽しいのかもしれないけど、今行って楽しいって思うのは、ここの11人で行ったから楽しいって感覚にはなれなそうで勿体無い。〉「ここ結構面白いメンバーが揃ってるよね (C子)」その後学校の話、先生の話等雑談が続く。

〔メンバーの感想〕 魅力度 = 4.11 (SD=1.05)

満足したこととして「何事もなく終わったこと (H子)」, 「どうにか時間もつた (E子)」。不満なこととして「何について話すのか、何のために話すのかがよくわからなかった (A子)」

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 4

この場が雑談できる場になるまでもエネルギーを使う。しかし、セッション中全員なんらかの発言があるのはいい。A子のグループに対して「乗り気じゃない」との発言に頼もしさを感じる。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 4

自分の体調が最悪でファシリテーターに迷惑がかからないかと気がかり。何とか痛みに耐えてグループを見守っていた。

#### ■第2セッション (1日目, 19:00~22:00)

「他のグループ外に出るかもって。私達もバドミントンとか…しません? (C子)」 「ここにいるのも息苦しいし (B子)」 《ここにいるのが息苦しいから他の場所に行きたいの?》 「駄目なんですか? (G子)」 しばらくやりとり。〈この場が息苦しくなっていけばいいね。どうしたらいいかなあ。〉メンバーの提案でせんだみつおゲーム等いくつかのテーブルゲームをする。

〔メンバーの感想〕 魅力度 = 4 (SD=1)

Fa.らに対して「意図することがわからない (B子, G子, H子)」, 「方向性を示してくれる (E子)」

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 5

Co-Fa.の発言が、意図するものがわかりやすくていい。向き合っても息苦しくないのは合コンのようなゲームなのか。ずいぶんと表面的だなあとと思うが、そこから始まっていくグループなんだろうなとも思う。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 2

だんだんと落ち着いてきた感じもあり、落ち着かない感じもあり。少し深まってきたが、すぐ浮

上してしまう。Fa.は落ち着いている。

#### ■第3セッション (2日目, 9:00~12:00)

沈黙の後「お互いの嫌なところを言い合うとか? (G子)」 〈とどう?〉 「自分の嫌なところとか知りたいし。誤解されてるんじゃないかとも思うし。」他のメンバーうつむき黙ったまま。〈G子さんがね、言っしてほしいと思うなら、言ってもらうのもいいと思うけど、それを全員でするとなると…どんなふうになるんだろう…〉 「私は聞きたい。違うところは違うよって言いたい (A子)」 「私は嫌、そういうの。ってゆうかさ、言っつて言われても言えるもん? (B子)」話し合い、G子とA子の第一印象がどうだったかをメンバー2、3人が伝えやりとりする。

〔メンバーの感想〕 魅力度 = 4.78 (SD=0.44)

「みんなの思ってること、自分がどう思っているのかだんだんわかってきたけど、もつと知りたい (A子)」, 「何を話したらいいのか悩む部分もあったけど、自分が言いたい時言えればいいと思えるようになった (E子)」。 「仕切りたがるG子の嫌なところが目立ってきた (H子)」 Fa.らに対し肯定的な感想 (わかりやすい、真剣に聞いてくれる) が挙げられた

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 6

全体的に「頑張った」セッションだった。メンバーが自分の言葉で話すところに好感を持つ。G子の提案にメンバーがのるでもなく、孤立しがち。G子の提案を出発点にメンバー全員によるものにしていければ…。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 5

自分は落ち着いて見守っていた。Fa., うまく促進していた。ついていきます。グループに自分がだいたい理解してもらえた感じがした。いくつか気になる発言があり、今後また流れないようにしたい。

#### ■第4セッション (2日目, 14:00~17:00)

〈プールに行くことが随分さらっと決まった感じがする。行く、行かないの2択を急がないで、それぞれが今どんな気分でお昼をどんなふうにご馳走したいのか聞くのもいいんじゃない。全員がパッと同意見つてまともにならなくても…ひとり1

人の様子がみえないことに自分が不安だけなのかもしれないけど…」「私はプールに行きたい (G子)」しばらくして「プールサイド」とC子がぼつりと発言。「写真でもとろうかな、カメラ持って来てるし」とのこと。プールに移動。C子はカメラを持ち、H子はしばらく見学してから水着に着替えプールに入る。プールに入ったメンバーは全員でビーチバレー。ボールを落としたメンバーが「ごめん」と言うのとそれへのリアクションもなく誰かが「はい次！」と急かす。途中Faがプールに入り、25メートル泳ぎ終え顔を挙げるとメンバーがウォーキング、競泳、雑談、バレーと思いつきに遊んでいる。それ以降小グループが固定することもなく思いつきに過ごす。プールサイドのC子へのメンバーからの声かけは最後までみられず、C子もうき輪等を並べて黙々と写真を撮る。途中で寒くなり少ないシャワーを順々に浴びる際も、プールで待つメンバーに言葉を残す者はいない。

〔メンバーの感想〕 魅力度 = 5.11 (SD=0.78)

「自分の感情が運動することで出せた感じがする (D子)」。C子に対して「はたらきかけができなかった (H子)」「一緒に楽しめたかどうか… (I子)」と気づかうコメントがあった。C子は「みんな楽しめた」。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 2

一見楽しそうに過ごすが、残された人、違うことをする人に対して存在そのものがないかのように振る舞いあうメンバーに緊張感を感じる。プールの中と外を少しでも繋ぎたく働きかけるが反応は薄い。お互いのことに触れないのは残る人、残された人どちらにも言える。ひとりひとりが強くあらなくてはずぶれてしまう雰囲気。厳しい世界。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 3

Fa, うまくまとめていると思う。ただメンバーの反応がうすい。難しい所。セッションをこのかたちで終わらせてよかったのか心残り。この不安全感がどこからくるのか分からない。

#### ■第5セッション (2日目, 19:00~22:00)

G子, C子の2人でお互いの家族の話。C子が他のメンバーに話をふると、G子「こないださあ…」とC子としか通じない話をしようとする。〈なんか

内輪話を目の前で盗み聞きしてる感じもしてね、このままこんな感じで聞いててもいいのかな〉沈黙後「恋愛話とか?」とG子「順々に話していきましょー」。「えー、彼氏いないし、話すことないし (E子)」「無い人は理想の男性について、とかなら? (B子)」「決まり。C子から左回り! (G子)」。「順々に話す。Fa, 順序を飛ばされ〈あの、私飛ばさないで〉と挙手。途中、「彼に避妊してつて言えない」との話から、避妊についての話題になる。真剣に考えフィードバックする者もいる中、「軽蔑する」と言い捨てる者もいる。また初めての交際相手である彼氏の話をしたがるメンバーを小馬鹿にする場面、また別れたばかりだから話したくないというメンバーに「その彼とつきあいたしたきっかけは?」と尋ねる場面がある。言われたほうも微笑んでいるだけで他のメンバーもなかなかフォローしない。「明日何する? (I子)」「牧場。パンがおいしいんですよ (E子)」「決まり! (G子)」

〔メンバーの感想〕 魅力度 = 5.22 (SD=0.44)

G子は「まだセッションについてどういっているかはつきりわかっていないこと」を気がかりとして挙げる。全体的に和やか、親近感が持てた等の感想が多かったが、中には「恋愛話はプライベートなことだから、話したくないと感じる人もいると思う (B子)」等発言が少ない人を気にかける感想もみられる。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 4

全体を通して「出会い」について語られた印象。経験の数に限らず、恋愛観や他のメンバーへの対応等メンバーの個人差がくつきりだ。楽しい話題ではあるが、メンバーを見下した態度や、配慮のない発言の多さが気になる。その事を言語化したら標的になっている対象者が明確になりそうで恐く躊躇する事も多い。フォローするのも神経がいる。Co-Fa.がいてくれて良かった。基本的に1メンバーとしていられるのは好きだが、このグループで1メンバーとなるとうまくまとめられそうな流れになる。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 5

グループの中で初めて自己開示した感じ。グループが少し深まった。家族の話などリアクションが増えた。次回、また元の状態にならないよう

になればいいが。明日の朝が心配。

#### ■第6セッション (3日目, 9:00~12:00)

「牧場に行きたいです」とG子。〈水を差すようでどうしようかとも思うんだけど、言わないでいるのも違うと思うから〉メンバー1人ひとりには親しみを感じるが、グループ全体になると恐さを感じることもあると伝える。他のメンバーへの優しさや配慮が実際はあるのに、実際の言動では少数派をパツと切り捨ててるようにうつる。《アンケートには書いてくれている人はいるんだよ。でもその時は何もしない。プールに行った時ほっとかかれてみたいで寂しかった。》「こういう話、狂いそうになる。放つとく方も心苦しさを感じてるんです。いちいち言葉にしなくなっていいでしょう、お互い苦しいんだから (B子)」「辛い時は誰だつてあるけど、いちいち言つたら相手に迷惑をかける。言うのは単なるわがまま。言わないで頑張れるからいいんです。(F子)」「…気になつても言えないことがあった。配慮が足りなかったかなつて思うことはあった。でもそれでもなんとか楽しくなればいって思つてるのに、そんなふうに言われると台なしになる (I子)」〈言つたら台なしになりそうな感じが私もあった。自分の気持ちを言わないことで場が持つこともあるけど、言わないでいることでしか場が保てないのつてどうなんだろう〉しばらく沈黙。「つてゆうかさー、先生かわいいね、外人さんみたい。」「研究つてどんなことしてるんですか?」ほめ殺しのような発言がFa.に集中する。

〔メンバーの感想〕 魅力度 = 4.44 (0.52)

A子, C子, F子, は「こういう話し合いもあるんだなと気付いた」「いろいろな意見が聞けてよかった」ことを満足したこととして挙げるが、他のメンバーはFa.が何を言いたいのか、またFa.の存在が分からないと感想を述べる。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 5

すごく疲れる。メンバー同士で配慮しあう発言が始めてみられたことには満足。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 6

みんなよく考えていた。Fa., よく頑張つていた。自分も力を出し尽くした。B子, G子のことをどう

扱つてよいか分からない。次が楽しみになつてきたことはよいこと。

#### ■第7セッション (3日目, 14:00~17:00)

パンフレットが広げられている。「バスで行けるかもしれないからフロントに頼んで下さい (G子)」牧場で、全員がソフトクリームを食べる。全員外を眺め黙々と食べる。食べ終わった人は順に席を立ち、緊張感がただよう。Co-Fa., 前のセッションで後半俯いたままだったB子と過ごす。メンバー2, 3人していると、誰かが別の小グループに引き抜かれ1人を作る、のくり返しが見られる。帰りのバスを待つ中、お土産コーナーのウインターを囲んで、「彼はこれ、〇〇ちゃんの彼はこれ」と笑いあう。生々しい話題に戸惑う。帰りのバスの中、「先生、楽しめました? (A子)」〈A子さんは?〉「パンもあつたし、ソフトクリーム食べたし良かったかな。」「(そうだね)

〔メンバーの感想〕 魅力度 = 5.33 (SD=1)

「自分の意見も言えし、それが行動としてできたことが嬉しかった (D子)」。「いいだしつべだったのでみんなの楽しそうな顔を見てほつとした (G子)」

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 3

こちらの言葉が通じない感じがする。疲れた。どうすればいいんだろうと思うが、メンバーがそう感じていないのなら、自分が気になっているテーマを取り扱うのはただのエゴかな。もう止めようかと思う。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度 = 6

メンバーは優しく、個人がそれぞれいられることも強さなのかなと思つた。B子やE子と気になつてた事を話せてよかった。あと1回と思うと、しなければいけないことが沢山あつて悩むところ。

#### ■第8セッション (3日目, 19:00~22:00)

Fa.の提案でひとりずつ話したいことを話すことにする。Co-Fa.の番になり《朝、G子さんと話したことが気になつて》とすると「もう止めて下さい。聞きたくない。終わったことでしょう」とG子。「聞きたくないことを話すなんておかしいよね」とC子に訴えるとC子「どつちの気持ちも尊重した

い」と返す。以降、話したいことを話していいかどうか、話し合う。後半「Fa, Co-Fa.は言いたいことばかり言ってる。すごくむかつく (A子)」 「近くに感じてきてたのに、何か言ってくるとそのことについて考えなきゃいなくなる。全然自由じゃない。Fa.つてなんのためにいるの? (C子)」メンバーが叫び出す。「みんな壊れた (G子)」 「ぶっちゃけた (A子)」どつと笑いがおこる。  
 [メンバーの感想] 魅力度 = 1.56 (SD=1.33)

「なんでこういう雰囲気や話が続くのだろう (E子)」。またFa, Co-Fa.に対して「距離を置いている感じがする (B子, H子)」 「空気が乱れる (F子)」。

[ファシリテーターの感想] 魅力度 = 5

こちらの発言が個人的な事情としてしか受け止められないのが残念。私がG子を支えるとCo-Fa.は孤立し、結果的に辛い状態を続けさせてしまった。メンバーにCo-Fa.をサポートする発言があって救われた、といつてもきつかったことと思う。

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度 = 7

大荒れ。Fa, も自分も共によく頑張った。メンバーのアグレッションに触れられたことは満足。しかしもう限界。メンバーにもう会いたくない。

#### ■第9セッション (4日目, 9:00~11:30)

沈黙。(話しておきたいことを話して) 順番に時間を作ることになる。世間話をする者、話すことはないからと質問を待つ者、進路の悩みを打ち明ける者等時間の使い方、話の内容はそれぞれだった。牧場のパンを食べながら過ごそうと提案があり、中央にパンが置かれたが、セッション中手を伸ばす者はなく、結局最後にじゃんけんをして分配し、それぞれ持ち帰ることにした。

[メンバーの感想] 魅力度 = 5.11 (SD=0.61)

満足したこととして、「総てのセッションをのりこえたこと (D子)」, 「1人1人主役になれていた (B子)」。

[ファシリテーターの感想] 魅力度 = 6

全員が地に足が座ったような、ここにいる感じが持てる。自然に流れにのれた。

[コ・ファシリテーターの感想] 魅力度 = 7

やっとうまくいった。昨日、捨て身でがんばっ

たかいがあって、本当によかった。ただ時間がなく、最後でやっとな落ち着いた。

#### 3. 参加後の感想

「参加者カード」に記入されたメンバーの7段階評定のグループへの満足度は平均 = 4.57 (SD=0.79) である。

自由記述欄には以下のように書かれている。また満足度も以下に示す。

A子: 今まであまり関わらなかった人とかかるともできて、より仲が深まり、自分も誤解してた部分、誤解されてた部分が少し改善することができたと思う。満足度は5。/B子: 人間関係について、深く考え、悩み、息が詰まり、精神的に気が苦いそうになったことは今回の研修以外なかった。満足度は5。/C子: もう少し楽しいお話ししたり、外に出たりしたかった。満足度は3。/D子: やつとすべてのセッションをのりこえたって満足感でいっぱいです。このセッションが何に役立つのかかわからないままでした。満足度は5。/E子: 最初から最後まで結局ファシリテーターの役目がわからなかった気がする。満足度は4。/F子: 研修会の意味がいまいちわからず終わった (特にファシリテーターの存在について)。正直苦手意識を持っていた相手に対して違う感情(プラスの感情)も芽生えよかつたと思う。満足度は4。/G子: 結果的にはみんながこわれて素が出てリラックスできたからよかった。だけどそれにいたるまではすごく一つ一つのセッションが息苦しくて居心地の悪いものでした。満足度は5。/H子: 今の自分の気持ちとしては心の中がスッキリとしてはればれしとしています。満足度は5。/I子: もつともつともつと、いっぱい話しをしたかったなと思った。満足度は5。

#### IV. 考 察

##### 1. グループの特徴

###### (1) 女性みのグループ

このグループの特徴として、まずファシリテーターを含め全員が女性だったことがあげられる。避妊の問題 (#5) がセッションで話題にあがったのは、女性しかいない構造により、女性特有の悩

みが発言しやすい場になったものと思われる。このように活性化された率直さには、ウイナーの話 (#9) でみられるような明け透けさ、露骨さという一面もあった。

###### (2) いじめの構造

第二の特徴として、このたびメンバーには今回欠席した生徒を「孤立させる側」と「孤立から守る側」の両者が存在した。この両者が直接対立する場面は見られなかったが、セッション中くり返されたメンバーの切り捨ては、日常の人間関係とも関連するものと推察される。

また、セッションにおいて切り捨てられるメンバーは流動的であり、誰もがその存在になる可能性を持っていた。ファシリテーターに対しても、Fa.を取り入れ、Co-Fa.を除外する動きがみられ (#6)、例外ではなかった。なお、メンバーに毎回共通していたのは、「切り捨て側」と「切り捨てられ側」双方とも、お互いへの感情は一切表出されなかったことである。

加えて、セッションアンケートの中でG子に対するネガティブな感情が何人かのメンバーから表出された。G子自身、ほぼ全セッションにおいてなんらかの提案をし、グループの流れを操作しようとする態度や特定メンバーとの会話等から、グループに対する不安の高さが伺われた。

このように、本グループで見られたいじめの構造には、①グループ以前から続いていた対立的な関係、②セッション中にメンバーを流動的に切り捨てる動き、③セッションアンケートで表出されるG子対他メンバー、という3つの要素がみられた。

###### (3) 女性みのグループであることと、いじめの構造との関連

以上2つの特徴 (①女性みのグループ、②いじめの構造) は、関連しあうと思われる。社会学者の原田 (1995) は、他者との差異化は同調傾向と同じく、同質な他者、すなわち同性の間でこそ成立するものと指摘した。また、この同質を前提にした小さな差異化は快楽であり、それがいじめ問題を解く鍵になるのではないかと述べており、本グループでみられたいじめの構造も、女性しか

いないというグループの同質性が前提になっているのではないかと考えられる。

##### 2. ファシリテーターの配慮について

前述のグループの特徴を踏まえた上で、いじめの構造がみられるグループにおいてファシリテーターに求められる配慮を実践できた面と、実践できなかったが必要であったと思われる面の双方から考察する。

###### (1) ファシリテーターが配慮できた点

###### ① グループ実施前からの人間関係

ファミリア・グループにおいて、メンバー間に固定化した人間関係が形成されているのは当然であろう。グループ当初から見られたメンバー間の切り捨て、傍観といった態度は、日常の人間関係の延長として捉えられると思われる。

また、グループでは、普段対極的な態度をとる二者が直接対立する場面はみられなかった。これはエンカウンター・グループが普段の人間関係の再現の場になると同時に、普段とは違う関係を持つきっかけになることを示しているだろう。

今回、学年集団の雰囲気やメンバーの人間関係等の情報を事前に聞くことが、グループの傾向を把握する一助となった。研修後もエンカウンター・グループ後も関係が続くことを考えると、事前に得る情報は、メンバーへの配慮を具体的に検討するうえで貴重である。

###### ② 孤立したメンバーへのフォロー

本グループのメンバーは、#1から自分なりのペースで発言することができるメンバーが多かった。それに対してグループ全体に関わる発言は避ける傾向があった。いつ切り捨てられてもそれを淡々と受け入れるメンバーの様子を見、1人1人が強くなくては潰される怖さを感じた。そこで彼等がグループへの安心感、安全感を持つには、まず安定した二者関係を基盤にグループへと広げていく関わりが適切と考えた。そこで全体を通して、孤立するメンバーのフォローにCo-Fa.がまわり、Fa.はグループ全体に目を向ける役割分担をした。

(2)ファシリテーターが配慮できなかった点

①不用意なフィードバック

安部(1984)は、青年期仲間集団のグループ体験におけるファシリテーションの要点として、①グループ体験へ動機づけるために、メンバー相互の「ちがいを明確にすること、②既知集団の中の異質メンバーとしてのファシリテーターはメンバーの「みんな意識」と「疑仲間関係」をとりあげることに、③グループ体験の中に持ち込まれた日常関係に対して、仲介者として新しい人間関係の獲得を援助することの3点を挙げる。本グループでは②を目的に、ファシリテーターがメンバーとして過ごす中で、グループに対しての感じをフィードバックし介入した。これは言わないでいることで保たれているメンバーの関係を揺るがす脅威として受け止められた。

②表面化しない孤立したメンバーの取り上げ

孤立したメンバーに対する気持ちは、セッション中には全く表出されずとも、セッションアンケートで書かれることがあった(#3)。これを活かし、アンケートで書かれたことをセッションで取り上げることで、実際には表現されていないメンバー同士の関わりを扱うことができるだろう。

③体を動かすこと

アンケートにて「自分の感情が運動することで出せた(#4)」とあり、体を動かすことが感情を出す有効な手段として認識されていることが伺われた。気持ちの言語化が難しい個人やグループの場合、スポーツ等の運動活動が自分の感情を

表現する手立てとして機能するだろう。また、要望が実現することで、達成感、成功感を得られるだろう。

④不安の高いメンバーへの関わり方

グループに対する不安の高いG子に、Faらは#8ではねぎらいの言葉をかけようとしたが、結果的にはそれがかえってG子を不安定にさせてしまった。これは筆者らが考える以上にG子の不安は高く、触れられないものであったのだと思われる。こちら側がポジティブな発言だと思っても、受ける側にとってもそうであるとは限らない。触れないこと、扱わないことがメンバーへの安心感へとつながることもあるという勉強になった。

謝 辞

御指導いただいた九州大学大学院人間環境学研究院 教授の野島一彦先生に感謝申し上げます。そして、一緒にグループを担当したコ・ファシリテーターの西見奈子さん(九州大学大学院人間環境学府修士課程)のご協力に感謝致します。また、エンカウンター・グループ・セミナーにて貴重な御意見を下さいました先生方にもお礼申し上げます。

引用文献

- 安部恒久 1984 青年期仲間集団のファシリテーションに関する一考察. 心理臨床学研究, 1(2), 63-72.  
原田 達 1995 同質と〈平等〉. ホーム・エコノミカ, 79.